

ダイワ コーポレーション 創業70周年

「感謝報恩、胸に一步先へ」

曾根 和光社長インタビュー



そね・かずみつ＝1968年2月11日生まれ、53歳。東京都出身。慶大経卒。大手総合商社を経て、92年ダイワコーポレーション入社、2001年専務、11年社長。



東京都大田区の敷地に、本社倉庫兼事務所を構えて事業を開始した

倉庫1棟で始まった歴史

1951年、初代社長の曾根英雄氏が大和実業を設立し、ダイワコーポレーションの歴史が幕を開けた。55年には運輸省(現・国土交通省)から営業倉庫業の許可を取得。79年には曾根功社長(現・名誉会長)が経営を継ぎ、地域密着型の質の高いサービスを展開すること、食品、電機などの得意先を拡大させていった。

経営のかじを大きく切ったのは90年代後半。業界のき2010年以降はEC業務拡大にもいち早く動き、事業の多角化を通じて先に先を見据えている。

近年はラストワンマイルソリューション、レスフィルをはじめ、将来性のあるスタートアップ企業に積極的な出資を行う同社。曾根社長は今後の成長のポイントに他業種との連携を挙げ、事業の多角化を通じて先に先を見据えている。

ダイワコーポレーション(本社・東京)は10月27日、創業70周年を迎える。曾根和光社長が大切にしてきた「感謝報恩の精神」を全社員が共有・実現することで、成長を遂げてきた。次の80周年に向け、目指すのは「元氣ハツツで全てが健全な会社づくり」だ。CX(顧客体験)の強化や新技術活用などの取り組みを通じ、さらなる飛躍を誓う。

創業70周年の節目を迎える。

曾根 まずは両親(曾根功名誉会長、富士子取締役)に感謝したい。2人が会社を守り抜いてくれたからいまがある。共に仕事をする役員、社員はもちろん、得意先様と協力会社様の存在も大きい。心から感謝している。

——会社全体で同じ志を持ち、プラス思考で動く組織力が強みだ。

曾根 入社以来、感謝報恩の精神を約30年間貫き、全社で「3つの力(人間力・現場力・提案力)」の育成と、CS(顧客満足度)・ES(従業員満足度)・PS(協力会社満足度)を追求してきた。

顧客体験が成長の鍵に

はじめ、経営者としては高くない目標を見据えている。足らない部分の強化が次の10年に向けたポイントになる。

——具体的には、

曾根 これまで以上に役員、社員のベクトルを、私が目指す志に合わせることを求める。新型コロナウイルスの

ワクワク、刺激を追求

——考えを共有することが急速な成長につながった。

曾根 約30年間で従業員数は4倍超に増え、売上高も2

同活動は、学生と年齢の近い社員が採用活動を行うことでミスマッチを防ぎ、優秀な人財を採用することが目的。社員には採用活動から会社を深く理解し、ビジネススキルを学ぶことにより、即戦力となる人財に成長してもらおう狙いがある。

チームは入社して4年目の社員30人ほどで編成。前年の活動を踏まえて新しいことをするルールが特長で、各世代は独自の取り組みを考える力を養う。曾根社長は「組織を横断的に、そして入社後も社長と接するチームをつくりたい。若手社員が会社を支えるという狙いが実現できている」と手応えを話す。

人財が成長の原動力 自ら考え、動く力を養う

ダイワコーポレーションの原動力となっているのが「人財」を大切にしている一貫した姿勢だ。若い頃から経営の重要な仕事を任せ、自ら考えてプラス思考で動く社員を育てる経営方針が、企業の急成長につながった。

曾根和光社長が「1年の中で最も重要な活動」と明言する採用活動。1990年代、曾根社長が信頼する企業と共に、本格的な取り組みを始めた。ところが、2000年代に入ると、学生の志



今年で8代目を迎えた「和く和くプロジェクト」。最年長のリーダー世代を中心に、自ら企画・立案している

安心して働ける環境も強み

創業70周年に向けては「未来を考えるとワークシヨップ」も開催。全社員から会社に関わる出来事や心にとどいたエピソードを募集し、優れた回答をした30人を選抜し、今後はその回答を

た。その後はチームに分け、社内発表会で勝ち残ったチームが来年度の記念式典で、30年後も勝ち残るために「わくわくする施策」をテーマに発表する予定だ。

曾根社長に伝え、課題解決や心のケアを図る。昨年の新型コロナウイルス感染症拡大後は、ワクワク接種時の特別休暇制

うことは大事だが、他社と同じでは普通以上の会社にならない。自分たちでプロジェクトを組む、わくわくや刺激を生み出していく。プロジェクトは私を含め、必要な部門の担当者に参加してもらい、経営状況や理念も教えるながら、参考書では学べないような経験をしてもらいたい。

——イメージは、

曾根 従来のない付加価値を提供したい。例えば得意先は、当社の倉庫で預かる得意先様の商品に、社員が心を込めた手紙を一緒に添えること

10年を見据え、経営層や本社、営業所の関係部署が参加する一大プロジェクトも展開する考え。

人財育成では充実した社員教育も特長で、毎年の新人社員研修内容の見直しや、各階層に合わせたさまざまなプログラムを用意する。長く安心して働いてもらうための工夫も凝らし、例えば、人事総務課は全社社員を月に1回、社内発表会を月1回、年1回の個人面談を実施。守秘義務を徹底しつつ内容を分たれど、安心して任せられる人財を増やしたい」と、さらなる取り組みの深化を目指している。

10年間の歴史	
2011年	代表取締役会長に曾根功氏就任 代表取締役社長に曾根和光氏就任
2012年	埼玉和光営業所開設(埼玉県初進出)
2014年	品川営業所開設 「和く和くプロジェクト」スタート
2016年	横浜本牧営業所開設 設立65周年記念式典を開催 名誉会長に曾根功氏就任
2017年	横浜本牧第2営業所開設 ロジポート川崎営業所開設
2019年	横浜町田営業所開設
2021年	川崎夜光営業所開設

企業概要	
本社	東京都品川区南大井6丁目17番14号
設立	1951年10月27日
資本金	9,000万円
拠点数	27拠点
総所管面積	83万3664㎡(25万2182坪)
従業員数	225人(パート・契約社員含む) ※10月1日現在
事業内容	普通倉庫、倉庫施設などの賃貸業、ビル賃貸業、自動車運送取扱事業、損害保険取扱事業、不動産業、輸出入貨物取扱業、宅地建物取引業 東京都知事(4)第81643号
売上高	176億8400万円(2021年3月期)
品質方針	私たちはお客様の願いを共に実現する物流CREATORとして現状の品質レベルに満足することなくアンテナを高くしてお客様のニーズをつかみお客様に感動して頂ける最高品質の物流サービスを提供します。

の力、3つのSの追求と同時に、得意先様の「CX」を重視する。この5年間は得意先様の取扱に寄与する会社を目指す。今後は勝つことも失うことも、相手の立場になって何をすべきかを考える。

——イメージは、

曾根 従来のない付加価値を提供したい。例えば得意先は、当社の倉庫で預かる得意先様の商品に、社員が心を込めた手紙を一緒に添えること

デジタル化、より推進

——次の10年を見据え、プロジェクトを計画する。

曾根 まずは今後5年をめぐり川崎営業所(川崎市)を建て替える。昭和50年代に建設した施設で老朽化している。長期間、安定的に賃貸借できる得意先様を探し、専用施設とすることを想定する。

——新技術活用もポイント。

曾根 DX(デジタルトランスフォーメーション)の実現にはデジタルシフトの推進が不可欠。現在は都内の平和島営業所で自動封函(ふうかん)ラインを整備したが、全

「感動体験」を提案していく。差別化を図ることで真のパートナー関係が構築できる。深掘りするには他の業界とも協力することも重要で、多くの人が新しいことを生み出すことが求められる。

曾根 プラットフォーム(基盤)を構築し、得意先様に当社の物流に合わせたものづくりが目標となる。これにより、生産性向上を実現できる。ICT部隊の力を底上げしつつ、当社の目指すDX像を構築していく。

——役員、社員に向けてメッセージを。

曾根 皆さんが幸せであるため、環境変化を先読みし順応できるように、最大限努力して参ります。最大限努力する。感謝報恩の精神を大切に今後も勝ち続けることはできない。近年は将来性のある多様な事業にも投資しており、営業倉庫を中核としながら、事業の多角化を目指したい。

心からの感謝を込めて

1951年、前身となる大和実業株式会社が誕生しました。

1991年にダイワコーポレーションに社名変更後は、「お客様の願いを共に実現する物流CREATOR」を合言葉に東京湾岸エリアを中心に倉庫拠点を展開してまいりました。

たくさんの方々に支えられ、弊社は10月27日に創業70周年を迎えます。

これからも感謝の想いを持って、自由な発想と人間力を武器に新たな価値を創造してまいります。

今後ともなお一層ご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。



株式会社 ダイワコーポレーション
https://daiwacorporation.co.jp/



